令和４年　５月１１日

令和３年度　特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
足利市立矢場川小学校	足利市教育委員会	公立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
足利市立矢場川小学校	https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/	https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成１５年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「【教育課程特例校】特別の教育課程の実施状況等について（足利市）」を参照。

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

（３）自校における評価

＜教職員＞　学校評価より

ア　「英会話学習モデル校」として

オンラインを活用して他校の児童と交流する機会をもつことができた。特に５年生と６年生は、ニュージーランドの中学生と英語でコミュニケーションをとる実践を通して、英会話学習のねらい「英会話学習を通じて、英語の音声に慣れ、英語を積極的に使おうとする態度を養うとともに、自分の考えを相手に伝えたり、相手の意見を正しく聞いたりするなど、英語を使う体験を通して、英語による実践的なコミュニケーションの基礎的な能力を養う。」の達成に向けた貴重な経験の場となった。

イ　教師から見た子どもの変容

・第１学年から英会話学習を行っていることで、「英語による簡単なあいさつ」や「数、色などを英語で言う」等の活動を繰り返し行うことができ、楽しみながらコミュニケーションの基礎を育むことができている。

・第１学年から英会話学習に慣れ親しむ機会があることで、繰り返し簡単な英語の歌を聞いたり、ＥＡＡやＡＬＴのティーチャーズトークを聞いたりすることで、英語での問いかけに自然に反応できる児童が増えている。

・第１学年から英会話学習を積み重ねたことで、外国語や外国の文化に対する興味や関心が高まっている。ＥＡＡやＡＬＴの母国について、食べ物や文化等の特徴、季節の行事等を英語で質問し、日本との違いを知ることで新たな発見につながっている。さらに、日本語の中で外来語として発音している言葉と本来の英語発音の違いにも繰り返し触れることができている。

（４）学校関係者による評価

＜児童＞　　児童アンケート

ア　英会話学習についてどう思いますか

・８０％程度の児童が、英会話学習が「とてもすき」「すき」と回答している。

・「あまりすきではない」「すきではない」と回答した児童は、学年が上がるにつれて多く傾向にある。しかし、５年生と６年生は、自分で伝えたい内容を考えて文にし、相手に正しく伝えるための話し方を学んでニュージーランドの中学生と英語でコミュニケーションをとることに挑戦した。実際に外国の人に自分が話した英語が通じたことで、大きな自信と喜びを得ることができた。

・学習内容や指導計画によって、高い効果が得られている。

イ　英会話学習で何ができるようになりましたか

・英会話学習を第１学年から継続していることにより、あいさつや曜日、自分の名前を伝えることができる等、自分ができるようになったことを自覚している児童が、学年が上がるとともに増加している。英会話学習の時間で、ウォーミングアップとして毎時間繰り返し学習していることによる効果と考えられる。

ウ　将来、英語はあなたにとって必要であると思いますか

・３年生以上の９０％の児童が、英語や英会話学習が必要であると考えている。その理由としては、「将来の夢を実現させるために必要である。外国に行ってみ

たいから。外国の人に聞かれたら答えたい。日本で外国の人が困っていたら助けたい。」などが挙げられた。一方、あまり必要ないと答えた児童は、「外国の人とは話さない。外国に行かない。恥ずかしい。」等の理由であった。

４．実施の効果及び課題

〈成果〉

・第１学年及び第２学年では、半具体物を示したり、歌やダンス、ゲームを取り入れたりすることにより、楽しい雰囲気で英会話学習に取り組むことができている。
・ＡＬＴやＥＡＡによる、英語特有の発音や抑揚を繰り返し聞くことにより、英語に慣れ親しむことができている。
・ＡＬＴやＥＡＡのデモンストレーションとともに、英会話に関する視覚教材がとても有効である。
・４年生は、桜小の児童とオンラインで交流をした。より相手に伝える言い方を練習することにより、自信をもって会話することができた。また、相手と伝え合うことの喜びを味わうこともできた。英会話学習への関心と意欲をさらに高めることができた。
・５年生と６年生は、英語チャレンジＤＡＹにおいて、一日の５時間を英会話学習として集中して取り組んだ。指導計画は、担任と業者で話合って考えたことで、児童の関心や意欲を高めながら実施でき、「話すこと」「聞くこと」を中心に楽しみながら力を付けることができていた。英語チャレンジＤＡＹの活動を生かして、ニュージーランドの中学生と英語でコミュニケーションをとる活動を行った。だれに、何を伝えたいのか等をはっきりさせたことで、めあても明確になり、意欲的に取り組んでいた。伝えたいことを日本語から英語にし、英文にしたものを友達と聴き合いながら何度も練習することで、自信をもって外国の人と会話をすることにつながった。活動を終える頃には、児童の様子から自信と喜びを得ている様子が感じられた。
・教室明示や学校内の施設の名称など、児童の目に触れる施設について日本語と英語名を併記したり、曜日や月の名前、天気等を英語名で階段の側面に掲示したりすることにより、日常的に英語に触れる機会が増えた。

〈課題〉

・ＡＬＴやＥＡＡとの活動を、楽しみにしている児童が多いが、２割程度の児童が英会話活動に苦手意識をもっている。苦手意識をもつ児童は、日本語ではない言語や発音を覚えることに困難を感じていたり、英語を聞いても分からない、英語を話すことが難しい、恥ずかしいと感じている。
・高学年になっても、歌やゲームに重点が置かれ、児童が自分の立場で自分の考えや気持ちを友達や指導者と伝え合うコミュニケーションまでに至っていない場合もある。
・英会話学習の指導に負担を感じている教員もいる。

５．課題改善のための取組と方向性

・児童にとって興味や関心がある年中行事や足利市に関すること、学校行事や他教科等と関連させた具体的な場面や状況を関連付けて体験的な学習を通して指導を行う。
・一人一人が友達やＡＬＴ、ＥＡＡと英語によるやりとりや活動を充分に行うことができるように、一日を通して英語に慣れ親しむことができる英語チャレンジＤＡＹを有効的に活用する。
・聴覚、視覚、運動感覚など、児童の困り感や状態といった個々のニーズに気付き、受け止め、全体の指導に有効的な工夫を学校全体で共有する。
・ＡＬＴやＥＡＡとの打合せの時間を確保するために、週予定に組み入れる。
・本時の英会話学習のねらいを明確にし、目的意識、相手意識、場面意識等を児童と共に共有して活動計画を考え、授業を行う。